

### はじめに

正常な心臓は規則的に1日約10万回動いていますが、脈の規則性が一瞬でも乱れたものは全て不整脈です。そして不整脈の代表的なひとつに心房細動があります。心房細動とは、心臓の心房という場所に異常な電気興奮が発生するために脈が不規則になるものです。高齢になるほどその頻度は増し、70〜79歳では約2%、80歳以上では約3%の有病率との報告があります。

### どんな自覚症状がありますか？

主な症状には、「胸がどきどきする」「胸の不快感」「胸の痛み」「脈の乱れ」「めまい」などがありますが、無症状で気付かれないまま放置されてしまう場合もあります。発作性に心房細動が起きたときは、急に脈拍が速くなったり乱れたりするため症状に気付きやすいですが、発作を繰り返すうちに心房細動で固定するようになると脈拍数も落ち着き、気付きにくくなる傾向があります。

### 心房細動だと何か困ることがありますか？

心房細動になると患者さんにとつて2つの困ることがあります。

まずは、心房内の血液がよどみ血栓と呼ばれる血液の塊ができやすくなることです。直径が数cmもある大きな血栓ができる場合もあり、この血栓が心臓を飛び出し脳までたどり着くと脳の血管がつまり、脳梗塞を引き起こします。もうひとつは、心臓の働きが弱まり心臓のポンプとしての機能が弱ってしまふことがあります。その結果、全身に十分に血液が送り出されなくなり、体を動かした時に息切れなどを自覚するようになります。これを心不全といえます。

### どんな治療方法がありますか？

#### 抗凝固療法とは何ですか？

心房細動では、まず薬物療法が行われます。薬には、血栓をできにくくする抗凝固薬、不整脈を防ぐ抗不整脈薬などがあります。また薬物療法他に、カテーテル治療が行われる場合もあります。

ここでは抗凝固薬について詳しくお話しましょう。これまで経口投与できる抗凝固薬には、ワルファリンという薬しかありませんでした。しかし最近では通称DOAC（ドオック）あるいはNOAC（ノアック）と呼ばれる抗凝固薬（ワルファリン）も登場しています。DOACはワルファリンと異なり食事制限が不

要で、また併用する薬剤によって大きく効果が変わってしまうこともあまりありません。また一度用量を決めたら、ほぼそのまま投薬を継続でき、ワルファリンのように抗凝固効果を確認するための定期的な採血による検査がほとんど必要ありません。これらの理由から最近ではDOACを選択される場合が多くなっています。ただしDOACは薬価（薬の価格）が高くなります。もちろん一定額は保険でカバーされますが、長期にわたって服用することから患者さんの経済的負担が大きくなり、それを理由にワルファリンを選択する患者さんも少なくありません。また心臓弁膜症を有する心房細動ではDOACを使用できない場合があります。注意が必要です。

### 最後に

抗凝固薬は血栓をできにくくする一方で、消化管出血や脳出血のリスクが高まります。したがって年齢や持病などを考慮に入れたうえで、内服すべきか否かを総合的に判断する必要があります。ご自身にどの治療法が合うのかは、主治医とよく相談なさってください。

## 日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	電話(048)	場所	施設名	科目	電話(048)	
7	2	朝霞	あいかわ循環器内科・内科	循内・内	461-8585	新座	永弘クリニック	泌・内・外	474-3708
	9	朝霞	関医院	耳	465-8550	志木	かとう整形外科・リハビリテーション科	整外・リハ	486-3770
	16	朝霞	朝霞整形外科・外科	整外	461-5128	新座	新座むさし野クリニック	内・アレ・循内	489-5323
	17	新座	たきやま小児クリニック	小・アレ	477-8620	朝霞	弁財泌尿器科・内科クリニック	泌・内	487-8160
	23	和光	田中医院	内	461-2060	新座	ひまわり診療所	泌・内・外・皮	485-9788
	30	新座	新座中央通り診療所	内・小	473-3331	志木	たなか整形外科クリニック	整外・リウ・リハ・麻	486-1010



※当番医は変更になる場合があります。確認してからお出かけください。